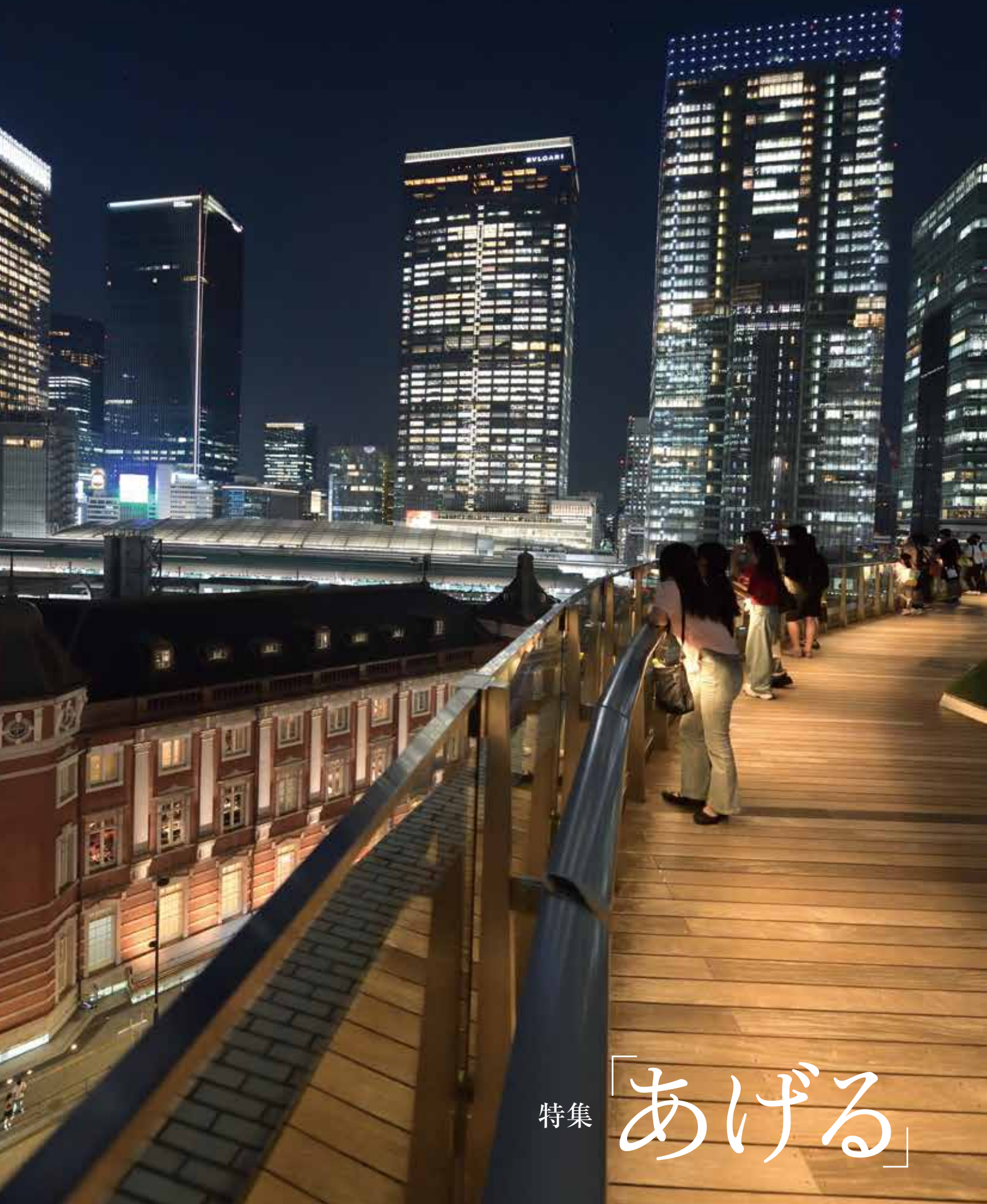
EAST TIMES

東日本保証広報誌 2026 秋号



特集「あげる」

特集「あげる」

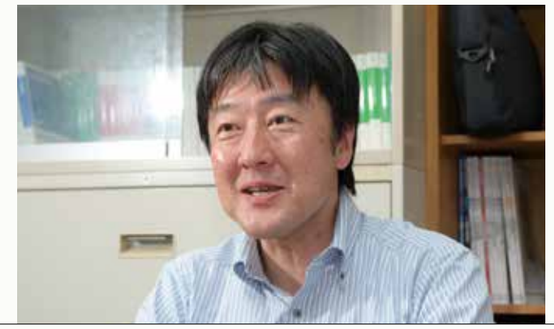
「あげる」をキーワードに、社会資本整備に関わるさまざまな取り組みについて考えていく

12
歓声をあげる
Photo Gallery
思わず歓声を「あげる」
眺めの良い展望施設



FUJIYAMAツインテラス（山梨県笛吹市）

04
効果をあげる
多角的な地籍調査の推進に取り組み
都市再生や災害復旧で効果を「あげる」
巻頭インタビュー
東京大学 大学院工学系研究科 社会基盤学専攻 教授　布施 孝志 氏





14
「電子保証」について



（提供:team どぼイチ）

08
みんなであげる
ルポ SNSトレンド1位の獲得へ！
土木の日にみんなで「あげる」
土木学者 土木タレント
team どぼイチ 代表　デミー博士

16
連載「けんせつのでんせつ」シリーズ88
小林如泥（じょでい）
建設産業図書館事務局　江口 知秀

18
トピックス 山形支店から
米メディアが挙げる
行くべき旅行先「山形県」

10
評価をあげる
地域の話題 よりみち この街　Vol. 38
建築家と作品の評価を「あげる」権威ある賞
日本建築学会作品賞　鈴木 伸子



ネズミの彫物
（当館職員　上原由子画）



山形花笠まつり（山形県山形市　写真提供:公益社団法人 山形県観光物産協会）



武蔵野プレイス（東京都武蔵野市　写真提供:kw+hgアーキテクツ ©SHIMIZU KEN）



表紙の写真

KITTEガーデン
（東京都千代田区）

JR東京駅丸の内南口前の商業施設「KITTE」6階にある屋上庭園「KITTEガーデン」。眼下にはライトアップされた東京駅丸の内駅舎、目線を上げれば丸の内・大手町・八重洲エリアの高層ビル群が輝き、華やかな夜景を楽しめる。

▶P12-13　Photo Gallery
「歓声をあげる」をご覧ください。



特集「あげる」

効果をあげる

多角的な地籍調査の推進に取り組み 都市再生や災害復旧で効果を「あげる」

巻頭インタビュー

東京大学 大学院工学系研究科
社会基盤学専攻 教授

布施 孝志氏

土地の境界や面積などを測量で確定する地籍調査。国土調査法に基づき市区町村が実施するものだ。土地の戸籍として市街地再開発や土地区画整理などの都市再生や災害復旧に必須の社会インフラだが、進捗率はまだ半分程度。その引き上げに向けどのような取り組みが見られるのか。空間情報学を専攻する東京大学 大学院工学系研究科 社会基盤学専攻 教授の布施 孝志氏に聞いた。

――地籍調査は建築や土木と、どのような接点があるのですか。

布施 例えば市街地再開発事業や土地区画整理事業を実施する場合、区域内にある土地の境界確認作業が必要になります。地籍調査が実施されていないと、とりわけ都市部では権利者が多数に及ぶだけに、境界確認作業が長期化する恐れがあります。また、それに必要な費用は事業主体の負担になるため、事業性にも影響を及ぼします。

もう一つ関係するのは、災害復旧です。地籍調査が実施されていない場合、復旧事業は土地の境界の確定から始まります。災害で境界を示す杭がなくなったりした場合は、それを改めて土地所有者立ち会いの下で確認します。そこに多くの時間や手間が掛かると、事業の遅れにつながりかねません。

3・11後の高台移転では調査期間と費用が6割程度に

――地震や水害など災害リスクは高まっています。それだけに、災害復旧時の問題は今後、各地で容易に顕在化しそうです。

布施 実際、地籍調査の実施状況が震災復旧事業の進み方を左右する例は見られます。

例えば阪神淡路大震災。当時の兵庫県内の地籍調査進捗率は約10％で、神戸市中心部、尼崎市、芦屋市等の地震による被害が大きかった地域では地籍調査が未着手でした。被災区域内の土地には、権利関係がはっきりしないものが含まれていたそうです。

その結果、震災復旧事業では境界の確定に時間が掛かったそうです。また被災者が住宅再建の建設資金を借り入れようにも、土地に担保を設定することができなかった例もあると聞いています。

これに対して東日本大震災では、地籍調査が進んでいたことが震災復旧を後押ししています。

例えば岩手県宮古市。住宅を高台に移転する防災集団移転促進事業を円滑に進めることができたそうです。移転先の高台造成地では地籍調査が実施済みだったからです。県では調査が仮に未実施だった場合との比較を試算し、用地調査期間を約3分の2まで、用地調査費用を約6割まで削減できたという結果を公表しています。

――地籍調査の実施状況は地域によって異なるのですね。

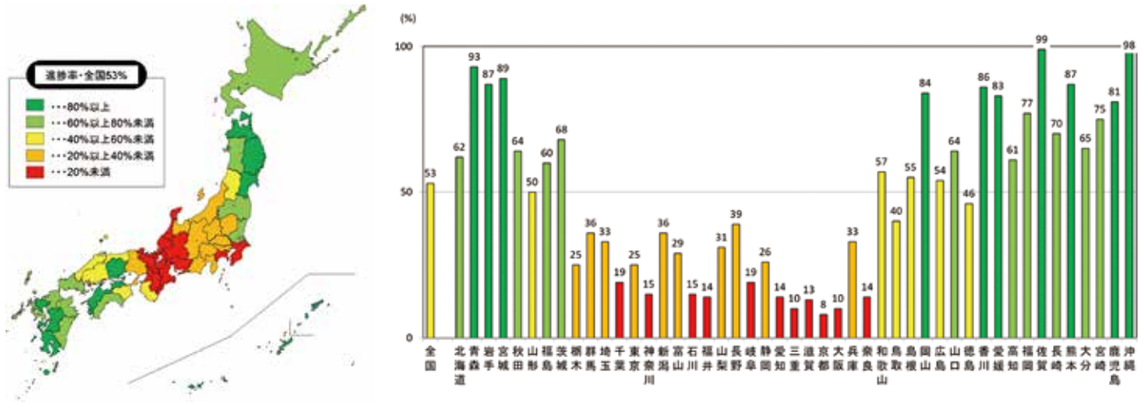
布施 はい。差がある理由については一概に言えませんが、首長の意向によって取り組み姿勢は大きく変わるようです。

――進捗率が低い市区町村はやはり、財政上の問題を抱えているということでしょうか。

布施 市区町村はそう弁明しますが、実際には疑問です。地籍調査の費用は国や都道府県も負担する仕組みです。実施主体とはいえ、市区町村の負担は一部に限られます。

負担割合は、国50％、都道府県25％、市区町村は残り25％という配分です。しかも都道府県や市

●全国・都道府県の地籍調査実施状況・進捗率（2025年度末時点、2026年6月調べ）



（出典:国土交通省 地籍調査Webサイト https://www.chiseki.go.jp/index.html）

区町村の負担分は、その80％が特別交付税措置の対象です。実質負担は費用全体の5％で済む計算です。

それでも地籍調査に予算を割けないのは、ほかの施策に比べると、優先順位が決して高くないということなのでしょう。

新たな手続き・手法の背景に所有者不明土地の問題

――市区町村にとっては財政と同様、人手の問題も大きい。手が回らないという事情もありますか。

布施　はい。人事異動もあるため、スペシャリストが育ちにくい環境にあります。もちろん、民間の事業者が調査実務を担う部分もありますが、複雑なものだけに、発注者としての管理業務が欠かせません。

――財政や人手の事情はあるかもしれませんが、それ以上に、市区町村の取り組みとしては地域住民に対する訴求力が弱いという事情が根っこにはありそうです。

布施　そうですね。結局、地籍調査の重要性が一般の住民に十分認識されていないということの裏返しでもあると思います。

――一方で国は、国土調査促進特別措置法に基づき策定する国土調査事業十箇年計画に従って、地籍調査を着実に後押ししてきました。現在は、2020～29年度を計画期間とする第7次計画を進めています。その中間見直しに向けて、国土審議会の下部組織である小委員会の委員長として議論を主導してきました。

布施　小委員会では、2020年度に措置された新たな調査手続きや効率的な調査手法の活用状況を振り返っています。例えば、「所有者等の所在が不明な場合の筆界（ひっかい）案の公告による調査※」や「リモートセンシングデータを活用した調査」などです。

これらの調査手続き・手法が定められた背景の一つには、所有者等の所在が不明な土地があります。これらの土地はまず、固定資産税の徴税上の問題を引き起こします。納税を要請しようにも連絡の取りようがありません。また、災害リスクの低減を妨げます。土砂災害を引き起こしそうな土地でも地元行政は手の打ちようがないからです。

そこで国は平成30年（2018）6月、所有者不明土地の利用の円滑化等に関する特別措置法を定め、円滑に利用する仕組みや適切に管理する仕組みを整えます。また令和2年（2020）3月には、土地基本法を改正し、土地の適正な利用だけでなく適正な管理という視点を加えました。

もう一つの背景は、地域の特性や技術の進展を踏まえる必要があるという点です。例えば都市部では、地価が高く権利意識が強い一方で、土地の細分化によって権利関係が複雑なため、境界確認が困難です。これに対して山村部では、土地所有者等の高齢化が進む一方、急峻かつ広大な土地が多いため、地籍調査を実施しにくい。新たな技術で補える点は補う必要があります。

これら2つの背景の下、令和2年3月には国土調査法も改正されます。ここで、地籍調査の円滑化・迅速化が掲げられ、調査手続きの見直しや効率的な調査手法の導入が打ち出されたのです。

リモートセンシングの活用で鳥取県は進捗率12％伸長

――新たな調査手続きや効率的な調査手法はその後、どの程度利用されているのですか。

布施　はい。例えば「リモートセンシングデータを活用した調査」は、実施自治体が2021年度は17市町にすぎませんでしたが、2023年度は45市町村に増えました。その後も、増え続けています。

この手法は、航空レーザー測量などの結果を基に筆界案を作成します。森林組合の協力を得ながら、土地所有者等に対して説明会を実施し、現地立ち会いに代える、という流れです。原則は現地立ち会いですが、客観的な資料がある場合には、それを基に境界を確定できる仕組みです。

この調査手法の活用で地籍調査の進捗率を伸ばした都道府県には、鳥取県があります。2012～22年の10年間で全国平均2％を大きく上回る12％の伸びを記録しました。和歌山県（進捗率の伸び21％）や徳島県（同13％）に次ぐ全国3位の伸びです。

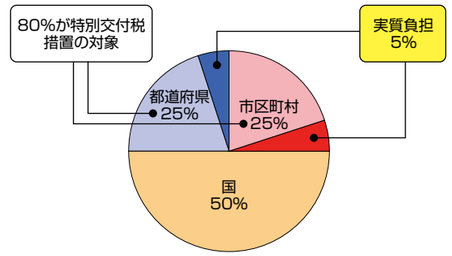
――和歌山県や徳島県で進捗率を伸ばせたのは、なぜですか。

布施　防災対策の推進とのセットが効果を上げました。防災を前面に押し出したほうが、首長としてインパクトを持たせられます。地域住民への訴求力が強い。防災対策と地籍調査のセットは効果的です。

――目指すべきとお考えですか。

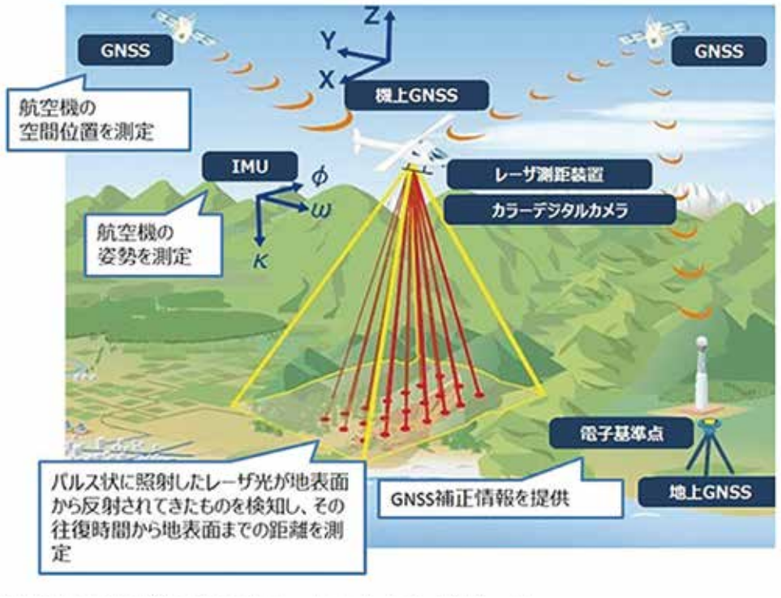
布施　100％です。経済活動にも関係する社会インフラですから、それを整えられないようでは困ります。ただ1700を超える市区町村が個々に実施するのは、大変です。都道府県が音頭を取ってより広域で実施できるともっと進めやすくなるのではと見ています。

●地籍調査の実施者と費用の負担割合



（出典:国土交通省 地籍調査Webサイト https://www.chiseki.go.jp/index.html）

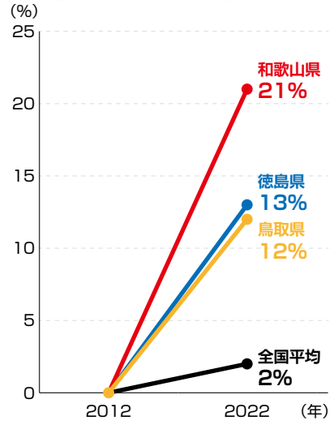
※ 所有者等の所在が不明な場合の筆界案の公告による調査:隣接する土地の所有者と連絡が取れない場合に、客観的な資料に基づいて作成した「筆界（境界）案」を公告し、一定期間内に意見の申出がなければその境界を確定させる手続き



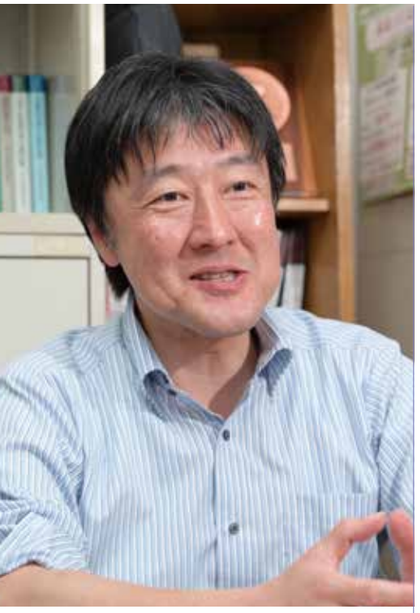
リモートセンシング技術の活用により効率的な地籍調査が実現
（出典:国土交通省 Webサイト https://www.mlit.go.jp/）

●近年の地籍調査の進捗が高い県

過去10年の進捗率の伸び（上位3県）



（出典:国土交通省 Webサイト https://www.mlit.go.jp/）



布施 孝志（ふせ たかし）

【現職】
東京大学 大学院工学系研究科 社会基盤学専攻 教授
【略歴】
1973年長野県生まれ。1997年東京大学工学部土木工学科卒。2002年同大学院工学系研究科社会基盤工学専攻博士課程修了、東京大学大学院工学系研究科助手、講師、国土技術政策総合研究所研究官、東京大学大学院工学系研究科准教授を経て、2017年より現職。
【専門／研究テーマ】
社会基盤情報学、特に、情報の計測・解析を中心とした空間情報学の高度化、空間情報学を応用した社会基盤計画・政策分析の高度化など
【近年の学協会・委員会での活動】
2023年9月～2024年5月 国土交通省 国土審議会専門委員（土地政策分科会企画部会国土調査のあり方に関する検討小委員会）、2025年6月～2027年3月 国立研究開発法人土木研究所 戦略的イノベーション創造プログラム「スマートインフラマネジメントシステムの構築」研究推進法人マネジメント会議ピアレビュー委員、2018年5月～2027年3月 国土交通省国土地理院 測量行政懇談会委員、2024年6月～ 日本建設情報総合情報センター 理事、2025年4月～ 日本地籍学会理事 ほか。
【所属学協会】
土木学会
日本写真測量学会
地理情報システム学会
電子情報通信学会
情報処理学会
日本地籍学会
日本測量協会
動体計測研究会
交通工学研究会

特集「あげる」

みんなであげる











ルポ SNSトレンド1位の獲得へ! 土木の日にみんなで「あげる」

土木の日 SNSアクション2025 投稿コンテスト 主な受賞作品
（写真提供:team どぼイチ）

毎年11月18日は「土木の日」。この日の11時18分に、土木への想いや関連する写真・動画などを、みんなでSNSに投稿しようという呼び掛けが4年目を迎える。名称は今年から「土木の日 SNSアクション」改め、「土木の日どぼイチアクション」。仕掛け人の思いを土木学者／土木タレント／team どぼイチ代表のデミー博士に聞いた。

SNSアクションは、だれでも参加可能。ターゲットタイムである11時18分に、SNSの代名詞であるX（旧Twitter）やInstagramに一斉に投稿する。投稿には共通のハッシュタグ「#土木の日2026」を付けるのがルールだ。

投稿内容はさまざまだ。なかには、ダンプトラックを並べて「土木」というダンプ文字を描くもの、同じ「土木」という漢字を複数人の人体で表現するものもある。写真はもとより、アニメーションも動画もある。

狙いは、バズること。SNSのトレンド1位を獲得し、話題になることを目指す。話題になればメディアに取り上げられる。それによってSNSになじみのない人にも知られれば、話題性はさらに高まる。

軍艦島の3次元CGがバズりSNS活用のPR効果を体感

「土木の世界は人手不足。それなのに、子どもたちの〝将来就きたい職業〟ランキングを見ても、建設業界は入っていない。話題になって知ってもらうことがまず大事です」

こう訴えるのは、土木学者のデミー博士だ。「デミー」は苗字の出水（でみず）に由来する愛称。長崎大学大学院で博士号を取得した本物の「博士」である。

アクションを主催するteam どぼイチでは、代表を務める。「どぼイチ」とは、土木の魅力を広めるために制作したPRキャラクターの名だ。

デミー博士は自らPRプロデューサーを名乗り、土木のPR活動を各地で展開する。原点は、長崎大学インフラ長寿命化センター勤務時代にある。

平成26年（2014）、同センターでは長崎市の委託を受け、市の沖合にある端島（はしま）の遺構状況記録調査を実施した。端島とは通称、軍艦島。炭鉱閉山に伴い廃墟化した島で、老朽化した鉄筋コンクリート造の集合住宅が残る。

調査結果から3次元CG画像を制作しYouTubeで公開したところ、大いにバズった。「1週間で数十万回再生。Xでも、すごくシェアされた。PRって、こうやるんだと知りました。私のPRの原点です」。

そこからは、主に子ども向けの土木PRイベントを主催し、PRのノウハウに磨きをかけてきた。イベントへの集客では限りがあることから、メディアの力を借りるようになり、そこで記者の目線に立ったPR活動を心掛けてきた。

アクションを思い立ったのは、SNSで土木の話題をバズらせようにも一人でできることには限りがあると考えたからだ。「さすがにインフルエンサーではないので、一人ではバズらせられません。それなら、みんなに呼び掛けようと」。

第1回は令和5年（2023）。土木の世界でそれまで築いてきた人脈をフル活用し、アクションへの参加を呼び掛けた。その結果、SNSに2000件以上の投稿がアップされた。

11時18分の瞬間風速でミッキー・ミニーに競り勝つ

しかし初挑戦の結果は、SNSのトレンド43位。土木の日である11月18日には、手強いライバルがいたのだ。

正体はミッキーマウスとミニーマウス。内外で絶大な人気を誇るキャラクターの誕生日が、ともに11月18日なのである。初挑戦の洗礼だ。

ここで気付いたのは、強敵に伍するには瞬間風速を吹かせる必要があるということ。実は1年目は、ターゲットタイムを定めていなかった。母数に大差がある分、投稿を一時に集中させないと勝ち目はない。

そこで2年目からは、11時18分をターゲットタイムに定め、そこで一気に勝負を決める作戦に出た。

この作戦はまんまと成功する。投稿は5000件以上と倍以上に伸び、Xではトレンド2位にまで浮上した。強力なライバルに競り勝ったのである。

しかし、念願の1位にはまだ手が届かない。3年目にはさらに、新手を打つ。コンテスト形式を採用し各賞1万円相当の賞品を贈ることを決めた。

例えば、「ベストスマイル！賞」や「カッコいいね！賞」などだ。「土木に対してこういう見方をしてほしいという思いを込めて賞を定めました」。

その結果、投稿数はまた一段と伸び、約9000件にまで達した。しかしそれでも、SNSのトレンドは4位止まり。「ファストフードの新商品発表やテレビ番組での同様の企画にやられてしまったのです」。

今年は満を持しての4年目を迎える。目標達成後のモチベーション低下を恐れつつも、目指すはやはり、SNSのトレンド1位。ただ、その目標達成はあくまで手段と言い切る。

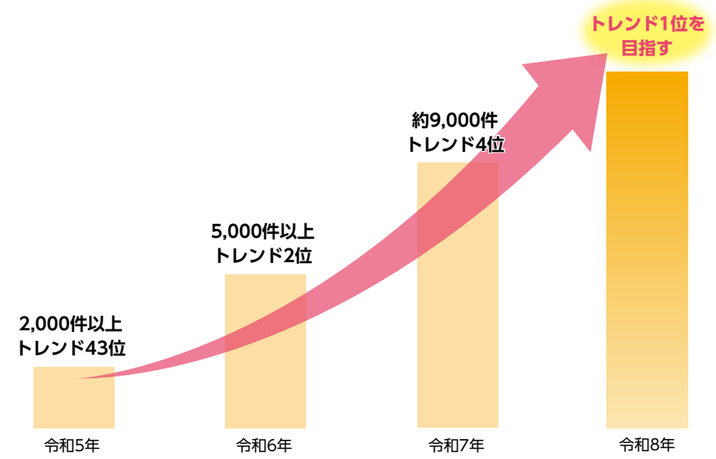
「土木の世界には口下手な人も少なくありませんが、自分の思いを社会に発信するのは大事なことです。それを、もっと後押ししたい。北海道から沖縄まで多様な人が投稿を通じて互いにつながれる。その良さにも気付いてほしいです」

11月18日11時18分。この日時を胸に刻み、「土木の日 どぼイチアクション」に今年は参加してみたい。



デミー博士（はかせ）
土木学者／土木タレント／team どぼイチ 代表

● 土木の日にSNS投稿された記事の推移（令和8年（2026）9月時点）



土木への想い、関連した写真やイラスト・動画を添えて、
共通ハッシュタグ「#土木の日2026」をつけて
個人や団体のX（旧Twitter）やInstagramで一斉投稿しよう!
そして、みんなの投稿を、シェアやリポストして盛り上げよう!



（提供:team どぼイチ）

詳しい参加方法はこちら
https://www.doboichi.com/1118act

建築家と作品の評価を「あげる」権威ある賞
日本建築学会作品賞

権威ある賞を受賞したことで、その作品や建築家の評価は上がり、その後、さらに活躍する建築家も多い。建築界でよく知られている賞には、建築家に与えられる世界的な賞「プリツカー賞」があるが、日本国内において、作品に対して与えられる賞では、日本建築学会賞の作品賞の権威が随一だと言われている。

昭和24年（1949）、賞が創設された年の受賞作は谷口吉郎の慶應義塾大学校舎および藤村記念館。その後1950年代から60年代にかけては、前川國男、丹下健三、村野藤吾といった大家が複数回受賞しているが、70年代後半から80年代になると、安藤忠雄の「住吉の長屋」、伊東豊雄の「シルバーハット」など、その建築家の出世作となった作品の受賞が目立つようになる。賞の歴史を重ねるうち、受賞作の選ばれ方、受賞したことによる世の中の評価も変わってきたのではないか。

今回は平成12年（2000）以降の受賞作で、都内でだれもが自由に見ることができる作品という点に着目して、受賞作を紹介してみよう。

地下鉄駅という場のデザインの可能性を拡張

平成14年（2002）の受賞作は、渡辺誠の「地下鉄大江戸線飯田橋駅」。平成12年に全線開通した都営地下鉄大江戸線のうち、同年に開業した26駅は、コンペにより選ばれたそれぞれ異なる建築家の作品が建設されたが、その一つである飯田橋駅の設計を手がけた渡辺誠の作品が、日本建築学会作品賞を受賞した。

この駅を利用してみると、その空間とデザインの斬新さに驚愕（きょうがく）する。ここで渡辺が挑戦したのはコンピュータプログラムで建築を自動生成させる試み。そのデザインは、当時よりＩＴ技術が発達した現在から見て決して古びていない。

また、コンペで与えられた制約の多い条件や、限られた予算よりさらに少ない建設費で、この東京のどこにもなかった地下鉄駅を創り出しているのも注目点だ。

階段とエスカレーターの空間に架けられた緑のウェブフレーム、地上の街路のような印象を持たせたプラットホームへの通路、土木構造体を活かした高い天井のプラットホームなど、機能性をクリアしながら心地よさを感じるデザインの工夫がある。

飯田橋の街の中心からは外れになるＣ３出口を出たところにあるのは、地下のウェブフレームが成長したような姿に見える換気塔。植物の葉をモチーフにしたものだそうだが、公共性を求められる駅という場において、ここまでの挑戦に成功していることに感服する。

気軽に訪ねたくなる〝場所〟づくりに成功した公共施設

ＪＲ中央線武蔵境駅南口駅前で不思議な存在感を放っているのは、平成28年（2016）の受賞作である「武蔵野プレイス」だ。この施設の正式名は、「ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス」。設計者は、比嘉武彦と川原田康子（kw+hgアーキテクツ）。図書館を軸に、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援の４つの機能を組み込んだ東京都武蔵野市の公共施設だ。

平成16年（2004）、武蔵野市が実施したプロポーザルで、設計者は「ビルディングからプレイスへ」というコンセプトを掲げて当選したが、その後武蔵野市の担当者との協議で設計案を大きく3回変更。完成まで約7年間を要したプロジェクトだったという。

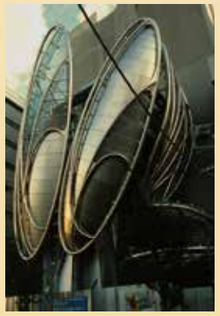
市が目指していたのは、あらかじめ公が用意した公共施設ではなく、親しみやすく、若者層や小さな子どもたちも来てみたくなるような場をつくることだった。

館内に入るとまずカフェがあり、各部屋は隣の部屋と繋（つな）がっていて、上階下階間には吹き抜けが設けられ、さまざまな空間を見通せる。各部屋はシェル状の角のない空間で、居心地の良さを追求。館内はカフェや各部屋のざわめきに包まれ、従来の図書館に求められた「静寂に包まれた空間」とは異なる新たな公共施設が誕生した。

近年新設される図書館においては、この「武蔵野プレイス」のように、利用者のニーズに寄り添い、だれもが来てみたくなることが重視されるようになった。「武蔵野プレイス」は、その先駆例としても、「社会を変えた建築」ということができそうだ。

（文：鈴木伸子）

すずき のぶこ　東京生まれ。東京女子大学卒業後、雑誌『東京人』編集部に勤務。1997年より副編集長。2010年退社後、都市、建築、鉄道、まち歩きなどをテーマに執筆活動を行う。


換気塔は地下のウェブフレームが成長したような姿


都営地下鉄大江戸線 飯田橋駅 階段とエスカレーターの空間に架けられた緑のウェブフレーム（東京都文京区）


プラットホームは土木構造体を活かした高い天井に


プラットホームへの通路は地下ではなく地上の街路のような印象

（写真提供:MAKOTO SEI WATANABE / ARCHITECTS' OFFICE）


吹き抜け（©小川重雄）


武蔵野プレイス外観（東京都武蔵野市　©SHIMIZU KEN）


メインライブラリー（©SHIMIZU KEN）


市民活動エリア（©SHIMIZU KEN）

（写真提供:kw+hgアーキテクツ）



思わず歓声を「あげる」眺めの良い展望施設

「すごい！」「きれい！」。雄大な自然や美しい夜景が見えるスポットでは、そんな歓声が聞こえてくる。今号では、思わず歓声をあげてしまうような眺めの良い展望施設を紹介する。

まずは東京都千代田区の「KITTE ガーデン」。商業施設「KITTE」の6階にある無料開放の屋上庭園で、東京駅周辺の景観を一望できる丸の内エリアきってのビュースポット。手入れの行き届いた芝生とウッドデッキが都心とは思えない解放感を演出する。新幹線を見つけた子どもたちからは、「はやぶさだ！」と嬉しそうな歓声があがる。夜にはライトアップされたJR東京駅丸の内駅舎と高層ビル群が輝きを放ち、昼間とは異なる表情が楽しめる。

続いては山梨県笛吹市の新道峠にある眺望スポット「FUJIYAMA ツインテラス」。季節ごとに表情を変える富士山と自然が織りなす景色を楽しめる2つの展望テラスが設けられている。〝絶景と出会える撮影スポット〟ファーストテラスでは、真正面に富士山、眼下に河口湖が見渡せ、ベンチやテーブル席があり、ゆったりと景色を満喫できる。富士山が目前に広がる〝感動〟、〝驚き〟のセカンドテラスは山の斜面に設置されていて、浮遊感も感じられる。

この他にも全国各地にはさまざまな眺めの良い展望施設がある。是非、足を運んでみてほしい。

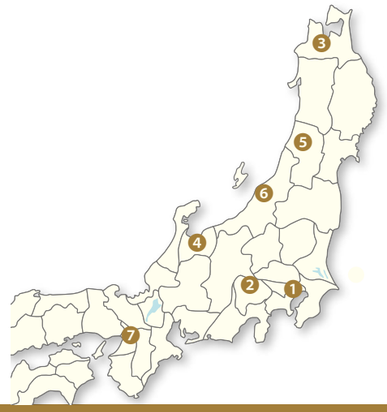


Photo Gallery

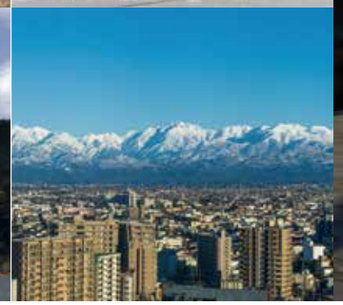










1. KITTEガーデン（2013年竣工　東京都千代田区）　2. FUJIYAMA ツインテラス（2021年竣工　山梨県笛吹市）　3. 青森駅からほど近い海に面した観光物産館アスパムの13階展望台。地上51mの高さから、青森市街はもちろん、下北・津軽・夏泊の各半島やむつ湾、八甲田の山々などの景観が360度ぐるりと眺望できる。（1986年竣工　青森県青森市　写真提供：公益社団法人青森県観光国際交流機構）　4. 富山市役所本庁舎展望塔は、地上70mに位置する360度の大パノラマが楽しめる展望施設。天候に左右されることなく富山の素晴らしい眺望を体験できるよう、季節ごとの立山連峰などの映像を映し出すディスプレイも設置している。（1992年竣工　富山県富山市　写真提供：富山市観光協会）　5. 日本百名山にも選定されている月山の麓にある寒河江ダム（月山湖）には、打ち上げ高さ約112mの大噴水が見られる展望広場がある。噴水のパターンは季節ごとに異なり、四季折々の風景をバックに多くの人を魅了している。（1990年竣工　山形県西川町　写真提供：同町）　6. 弥彦山パノラマタワーは、日本海・佐渡島・越後平野を一望できる日本最古の現役で活躍する回転昇降式展望塔。地上100mの高さから360度の絶景をゆったり楽しめる。（1970年竣工　新潟県弥彦村　写真提供：一般社団法人弥彦観光協会）　7. 東大阪市役所本庁舎22階にある展望ロビー。令和7年（2025）12月には南側エリアが、『アイリスチトセおおぞらパーク』としてリニューアルし、世代を問わず楽しめる過ごし方が見つかる場として生まれ変わった。地上100mからの眺望は、日本夜景遺産に認定されており、多くの夜景ファンを楽しませている。（2003年竣工　大阪府東大阪市　写真提供：同市）

「電子保証」について



弊社では、お客さまの利便性向上および社会的な電子化推進の要請に応えるため、「電子保証」の取扱いを行っています。

1 「電子保証」とは

「電子保証」とは、近年の社会的要請である各種手続きのデジタル化に対応するため、従来書面にて交付していた前払金保証・契約保証の保証証書について、インターネットを通じて電子的に提供できるようデータ（「電子証書」）により交付するものです。

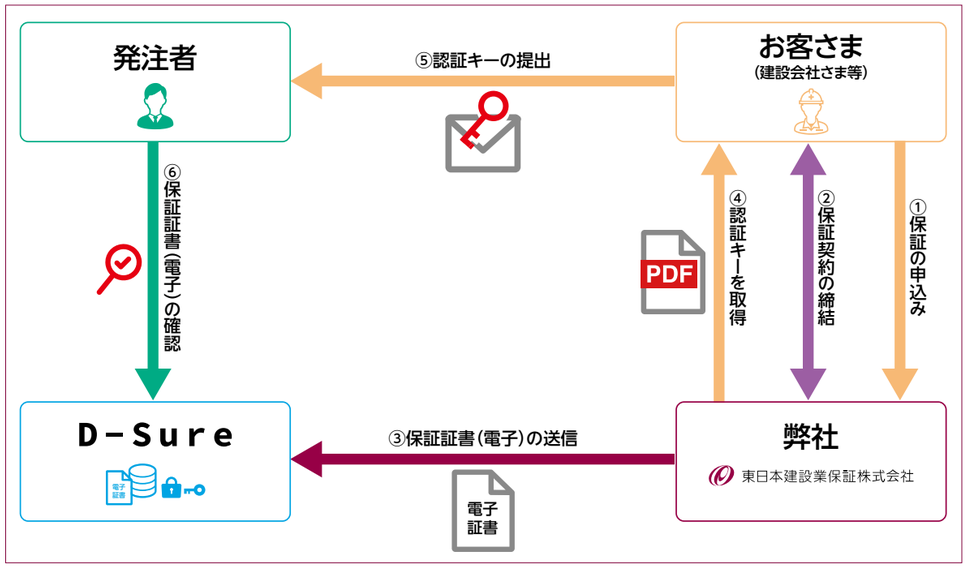
2 「電子保証」のメリット

「電子保証」は、従来の書面による保証証書に代わり、インターネット上で保証証書の内容を確認できる仕組みです。これにより、保証証書の即時受取が可能になるほか、発注者へ保証証書等を郵送または持参する必要がなくなり、ペーパーレスの促進と提出・保管に係る事務負担の軽減、手続きの効率化が期待できます。

さらに、発注者側では「電子証書」が高度なセキュリティ技術のもと安全な環境（D－Sure）に保管されるため、保管事務の負担や紛失リスクの軽減にもつながります。

なお、「電子保証」の導入にあたって、受注者・発注者ともに新規の費用負担はありません。

●「電子保証」の仕組み



D－Sureとは?

電子証書を集中管理し、発注者が閲覧できる仕組みをインターネット上で提供するサービスです。D－Sureでは、各種セキュリティ対策を講じており、セキュアな環境で電子証書を管理しています。

※D － Sureは、日本電子認証株式会社（NDN）が運営するクラウドサービスです

3 「電子保証」の導入状況

「電子保証」は令和4年（2022）5月、国土交通省の導入を皮切りに、各省庁をはじめとした発注機関へと拡大されています。東日本管内の導入済み地方自治体は、令和8年（2026）6月1日現在、都県23団体、県庁市および政令指定都市16団体、市区町村311団体となり、導入当初から大幅に増加しました。

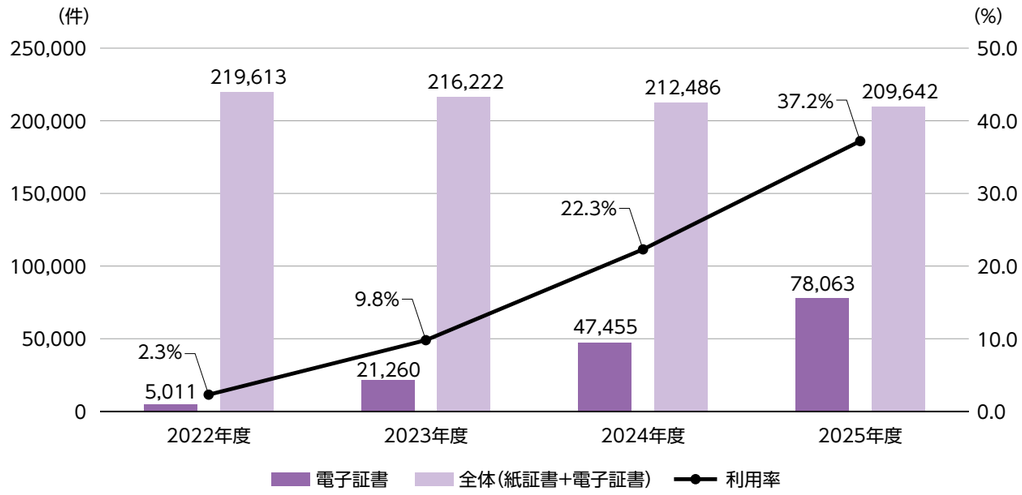
また、富山県、石川県では、県内全市町村で「電子保証」が導入されています。

「電子保証」は、保証証書の提出・保管に係る事務負担の軽減やペーパーレス化の推進に寄与するだけでなく、紛失リスクの低減といった面でも効果が期待されています。

弊社では今後も、より多くの発注機関において「電子保証」の取扱いが可能となるよう、関係者の皆さまへの情報提供と制度理解の促進に取り組んでいきます。あわせて、案件ごとの運用状況を丁寧に確認し、円滑な手続きにつながる体制整備を進めています。

本件に関するお問い合わせは、弊社の営業部・支店までお願いします。

●「電子保証」利用率の推移





「電子保証」特設サイト公開中

弊社ホームページで「電子保証」に関する特設サイトを公開しています。

https://www.ejcs.co.jp/e-surety/

けんせつのでんせつ シリーズ88

小林如泥（じょでい）

はじめに

東京国立博物館が所蔵する麻葉透彫（あさのはすかしぼり）の「袖障子（そでしょうじ）」は、あの高名な彫刻家の高村光雲（こうそん）をして「是は必死の力で作った、是は洒落や道楽の仕事で無く、珠のやうな汗を掻いて一心不乱になった仕事だ」と絶賛せしめました。

「材料は桐で厚さは約2㎝もあるのに、スッキリと精巧に麻の葉の模様が透かしてある。しかも切り口が、鋭角（かんな）をかけたように磨かれているので、百年たっても透かし部分にホコリが溜まることもない。糸鋸（いとのこ）も無い時代にどのように細工したのか。如泥は弟子を取らなかったので、技を継いだ者がおらず、その方法が伝わっていないのが惜しい」と、およそこのように光雲は歎いています。

この袖障子を作ったのは、小林如泥という島根県松江市の指物大工でした。ただし、指物だけではなく、彫物もよくし、建築も手掛けたと伝わっています。

来歴

寛政9年（1797）2月、出雲国松江大工町に住む指物大工小林安左衛門は、七代藩主松平治郷（はるさと）から剃髪（ていはつ）を命じられ、如泥の号をさずけられました。時に如泥45歳、治郷47歳。ちなみに松平治郷とは茶人大名として有名な松平不昧（ふまい）のことです。

雲州松平氏の藩祖松平直政は、徳川家康を祖父とする由緒正しい血統で、もともと信濃の松本に封ぜられていましたが、寛永15年（1638）2月に松江へ移された時、如泥の祖先も大工として藩祖に従いました。

如泥は寛政2年（1790）に父親の死によって38歳で跡を継ぎ、寛政4年（1792）に40歳で譜代格大工にすすんで、麻葉透彫の袖障子のような作品を生み、いくたびも褒美にあずかったといいます。

町のうはさ

高村光雲に「刀鑿（とうさく）を執っては其技神の如き」と唸らせるほどの腕前だった如泥ですが、やはりそうした人物には左甚五郎よろしくさまざまなうわさが生まれるようです。

小説家石川淳の『諸國畸人傳』（昭和41年刊）によれば、「今日なほさかんにおこなわれているのは、ジョテイさんについての町のうはさである。ほとんど口碑に似てゐる。如泥はもはや傳説の名工として不幸にも死ぬといふたのしみを知らない」というほど、当時はまだ松江の町で語られた存在だったと知れます。石川はこのような「町のうはさ」の数々を採集しているのでそれをご紹介していきましょう。

如泥の号

さて、冒頭にて如泥は「如泥（泥の如く）」の号をさずけられたと書きましたが、それはどういった事情だったのでしょうか。

これについては、石川の著書とは別に山田書院が昭和37年（1962）に刊行した画報『伝説と奇談 中国・近畿篇』から拾ってみましょう。

ある日のこと。如泥は大好きな酒をしこたま喰らい、ふらふらになって武士に突き当たってしまった。切り捨てられそうになっているところを、運よく不味公が通りかかり、「その者、酒に酔ってよく泥の如となりけり。許すべし」と場をおさめてくれた。その藩主の言葉で「如泥」と名乗るようになったのだという。

ただし、石川の『諸國畸人傳』では、李白の襄陽歌（じょうようか）の一節「笑殺山翁醉如泥（山翁が泥のように酔っぱらって笑ってしまう）」に由来するというので、おそらくこちらが真相なのでしょう。

剃髪

また剃髪を命じられたとも書きましたが、これについても逸話があります。高村光雲が『建築工芸叢誌』第二十一冊によせた文章によると、そもそも剃髪は主君の不味公が彼を側に置いておくためらしく、チョンマゲの大工では身分が違いすぎるけれども、法体（出家した僧侶などの姿）ならば許されるということなのだそうです。

如泥は禿頭になるのは嫌だったようですが、不味公は酒をしこたま飲ませて、前後不覚になったところで、頭をくりくりに剃ってしまったとか。

まあ、この話が本当かはともかく、「如泥」の号の話同様こちらも酒がらみで、酒好きだったことは間違いないようです。



如泥石
（画報「伝説と奇談 中国・近畿篇」山田書院 昭和37年より転載）

ネズミの彫物

如泥の作品については、左甚五郎の伝説にとんち話を交えたような話が伝わっています。

ある時、不味公は如泥と別の彫師とにそれぞれネズミをつくることを命じて、その技をたたかわせ、ネコに審判をまかせると、まっしぐらに如泥のネズミに飛びつきました。不味公の御前で面目を立てた如泥ですが、ネズミはかつおぶしで作ったのだそうです。

ひょうたんの内側

またある時、江戸城中に諸大名が集まった席で、めいめいの国自慢が始まりました。不味公は如泥の神技をほめそやしたところ、薩摩侯から注文がつきました。「いかに名人でもひょうたんの中に紙は貼れまい」



ネズミの彫物

不味公は帰邸してことの次第を告げると、如泥は紙漉場（かみすきば）へ行き、紙の繊維を溶かした液をひょうたんに注いでよく振りました。それが乾いた時、紙はひょうたんの中に貼られていたのでした。

黒船のカラクリ

まだまだ、『諸國畸人傳』には多くのうわさ話が載せられていますが、最後に如泥没後の大カラクリの話を紹介しましょう。

如泥は死期を悟って、生前の恩に報いんと大箱一個を不味公に献じたところ、これを松江から江戸へと運ぶために、長尾右京という者が宰領として任じられました。彼らが小田原の本陣についた時、箱根の険阻を越した気安さから祝宴となり、酔いに任せて箱を開いてみると、三本マストの黒船一艘が入っていました。

船首の台上には身の丈三寸（約9㎝）の船員が望遠鏡を持って見張っており、船尾についたネジを回すと、さっと船室に引っ込んでしまいました。

すると、代わって船室からは船員たちの群れが押し出してきて、めいめい持ち場に着くやいなや、船長の号令一下で大砲から砲弾が放たれ、空高く打ちあがったかと思えば急転直下に落ちてきて、船は粉々に砕けてしまいました。長尾はこの責任をとって自決したということです。

飛騨の匠

およそ、現在の技術を持ってしても実現不可能なカラクリと思えますが、古くは『今昔物語』に「飛騨ノ工（ひだのたくみ）」という無名の工匠が、有名な実在の絵師である百済川成（くだらかわなり）と技くらべをするという話を載せています。

「飛騨ノ工」がつくった四面すべてに入口をつけた一間四方の堂に、百済川成が入ろうとすると自動的に入口の戸が閉まってしまい、中に入ることができなかったなどと、おそらくは、如泥の黒船の話もこのような古典をヒントに作られたのでしょう。

波止石

さて、指物や彫物で入神の技を見せた如泥ですが、実は彼の才能は土木にも発揮されていたといいます。松江の名勝・宍道湖（しんじこ）に設えられた「波止石」がそれです。

宍道湖畔に石臼を逆さにしたような石が並べられており、これは波の浸食から岸を守るためのものだそうです。この石は一名「如泥石」ともいい、石臼の石と同じもので、岸から見える部分は本物の石臼の底のように、凹みが円をなして縁をめぐっています。

おわりに

しかし、実際には大工が湖岸工事に関わるとは思えません。左甚五郎の伝説でも江戸城から城外に通じる抜け道のトンネルを造ったなどと、およそありえない話が作られています。

実は、建設関係以外の方は、往々にして土木と建築の区別がつかないようです。私自身も当館に勤めるまではその一人で、土木と建築の違いを問いかけられても、明確に答えられませんでした。

また、松江の月照寺（げっしょうじ）にある不味公廟門などは、小林如泥の作と伝わっていながらも、中央の龍や柱上部の葡萄（ぶどう）の透し彫りの細工が彼ならではの作品に見えるから、などと建築物についても根拠に乏しいものもあります。

そのようなことから、小林如泥という名工を産した松江では、左甚五郎伝説のように土木建築に関わらず、作者不詳の優れた構造物を成した手柄は、彼へと帰すことになったのではないかと考えています。

（文：江口知秀）
（画：上原由子）



松江市の月照寺にある不味公廟門（2015年撮影）。如泥の作と伝わるが、如泥の方が5年も早く亡くなっているので異論もある

小林如泥作の麻葉透彫の袖障子については、ColBase（国立文化財機構所蔵品統合検索システム）で「如泥」で検索すると画像を見ることができる

https://colbase.nich.go.jp/?locale=ja

TOPICS

山形支店から 米メディアが挙げる 行くべき旅行先「山形県」

米国の有力メディア「ナショナルジオグラフィック」が令和7年（2025）10月に公開した「2026年に旅行する世界で最もおすすめの場所」（世界の旅行先25選）に、山形県が日本で唯一選出されました。選出理由は、「行くべき理由：人混みを避けながら、古式ゆかしい伝統と別世界にいるような屋外体験ができる」と題し、次のように紹介されています。

「日本にある人気の観光地の一部はオーバーツーリズムの問題を抱えているが、東京から北へ約400kmに位置し田園風景が広がる山形県なら、別世界のような静けさを楽しめる。山形県の神聖な山々、静寂に包まれた寺や神社、温泉地を体験しに来る訪日客はそれほど多くない。

蔵王のスキー場と温泉、フォトジェニックな銀山温泉の街並み、『山寺』の通称で知られる宝珠山立石寺などを一度訪れれば、生涯忘れられない体験となるだろう。出羽三山（羽黒山、月山、湯殿山）では山伏と共に山を歩き、滝行を体験できる。

出羽三山の中でも月山は降雪量が多く、夏の初め頃までスキーを楽しめる。山形県の南部にある白川湖には3月下旬から5月下旬にかけて雪解け水が流れ込み、水没林が現れる。ガイド付きのカヌーツアーに参加すれば、まるで水の中から生えているようなシロヤナギの木々の間を進みながら、遠くに雪をいただく飯豊山を望める。

米沢市にある上杉神社では2月、雪で作った200基余りの灯篭や1000個のぼんぼりに火がともされる『上杉雪灯篭まつり』が開催される。8月上旬には山形市で『山形花笠まつり』が開かれ、華やかな着物をまとった1万人を超える踊り手が、ベニバナをあしらった笠を手に市中心部を練り歩く」

今回はこの中から、「山寺」と「山形花笠まつり」を掘り下げて紹介します。



「山寺」の参道脇にある参拝者を見守る芭蕉（左）と弟子の河合曾良（右）像



「山寺」山頂の五大堂は、里山の大パノラマが望める絶景スポット

「山寺」は、山形市にある天台宗の古刹で、貞観2年（860）に慈覚大師・円仁が開いたといわれています。断崖絶壁と奇岩が連なる山肌に堂宇が点在し、参拝者は約1000段の石段を登ることで、自然と信仰が重なり合う〝修行の道〟を体感できます。根本中堂（本堂）が放つ重厚な存在感や参道の清らかな静けさを象徴するものとして、松尾芭蕉の名句「閑さや岩にしみ入る蝉の声」が広く知られています。

10月ごろの「山寺」は、色づき始めた木々と澄んだ空気が魅力です。緑深い杉木立に、カエデやブナの黄・朱が差し込む風景は、秋への移ろいをゆったりと感じさせます。中腹にそびえる納経堂は断崖に寄り添うように立ち、秋の斜光が木組みと岩肌の陰影をいっそう際立たせます。さらに登って目指したいのが、五大堂です。山形盆地を一望する眺めは圧巻で、紅葉の山肌と遠景の町並みが溶け合う様子は息をのむほどです。

山形の夏の風物詩「山形花笠まつり」は、毎年8月5日から7日までの3日間、山形市中心部で開催される東北有数の祭りです。起源は諸説ありますが、大正時代に尾花沢市で行われていた徳良湖の築堤工事の際に歌われた土つき唄や踊りとされています。戦後の観光振興の流れの中で、現在の形へと発展しました。

紅花をあしらった花笠を掲げ、踊り手たちが「ヤッショ、マカショ！」の掛け声とともに目抜き通りを進むパレードは圧巻です。笛や太鼓の囃子に合わせて隊列がうねるように動き、衣装の色彩と笠の花が夜の街を華やかに染め上げます。かつては一糸乱れぬ「正調花笠踊り」が主な見どころでしたが、近年は「正調女踊り～薫風最上川～」や「正調男踊り～蔵王暁光～」のほか、「笠回し系花笠踊り」や趣向を凝らした「創作花笠踊り」など、多彩な演目が観客を魅了しています。

ここでは詳しく触れませんでしたが、個性あふれる温泉（蔵王温泉、かみのやま温泉など）、自然豊かな山々（鳥海山、蔵王連峰など）、歴史ある寺社仏閣（熊野大社、鈴立山若松寺など）、伝統行事（天童桜まつり「人間将棋」、「加勢鳥」など）も、山形県の大きな魅力です。ぜひ足を運んでみてください。



3日間で約140団体1万人の踊り手がパレードに参加する「山形花笠まつり」

（写真提供:公益社団法人 山形県観光物産協会）

山形支店
〒990-0024
山形県山形市あさひ町18番25号 山形県建設会館2F
TEL.(023)622-6625　FAX.(0120)027-246

編集後記

令和8年熊本地震ならびに令和8年千葉豪雨で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。発災直後から建設業に携わる方々が被災地に入り、自衛隊や消防・警察と連携しながら、復旧・復興に向けた活動を開始しました。復旧活動が続くなか、不眠やフラッシュバックなど、いわゆる惨事ストレスによる心身の不調がございませんでしょうか。被災地の一日も早い復興と、復旧活動に従事される皆さまの安全を心より願っております。

さて、今号のルポでは「土木の日 どぼイチアクション」を紹介しました。昨年の土木の日には、Instagramで「#土木の日2025」が付いた投稿を複数見かけましたが、トレンド1位獲得を目指したアクションが行われていたことは知りませんでした。世界的に有名なキャラクターや、ファストフード・大手飲食チェーンなどの強力な話題と競い合いながら、トレンド2位、4位を獲得してきた実績は見事だと思います。今年はどのような強敵が登場するかわかりませんが、みんなでSNSに投稿し、念願の1位獲得を目指しましょう!

皆さまのスケジュールにも、11月18日（水）11時18分「土木の日 どぼイチアクション」を、ぜひ追加してください。

「土木の日 どぼイチアクション」の詳しい参加方法はこちら
https://www.doboichi.com/1118act

特集一覧

2015年	2016年	2017年	2018年
冬：へらす	冬：くみあわす	冬：しる	冬：つかう
春：もてなす	春：ささえる	春：やすむ	春：かえる
夏：さかせる	夏：つなぐ	夏：いかす	夏：ふせぐ
秋：こわす	秋：たのしむ	秋：あゆむ	秋：つたえる
2019年	**2020年**	**2021年**	**2022年**
冬：あたたまる	冬：とりくむ	冬：ひきつける	冬：かさねる
春：かんがえる	春：つなぐ2	春：つたえる2	春：むきあう
夏：めざす	夏：たかめる	夏：ふかめる	夏：みなおす
秋：みせる	秋：みちびく	秋：ととのえる	秋：えがく
2023年	**2024年**	**2025年**	**2026年**
冬：はたす	冬：かたる	冬：かがやく	冬：ねがう
春：つくる	春：あらためる	春：むかえる	春：したしむ
夏：きずく	夏：つどう	夏：かなえる	夏：ひろげる
秋：めぐる	秋：みちびく2	秋：みつける	

EAST TIMES
禁転載
東日本建設業保証株式会社
https://www.ejcs.co.jp
事業内容：公共工事の前払金保証、中間前払金保証、契約保証、契約保証予約
公表資料：公共工事の動向、建設業景況調査、建設業の財務統計指標
※本誌の掲載文のうち、意見を述べた部分については、執筆者の個人的見解であることをお断りします。
※誌面に関するご意見・ご要望、送付先変更等につきましては弊社ホームページ「お問い合わせ」フォームより送信願います。

EAST TIMES 2026 秋号　令和8年10月発行

発行・編集：東日本建設業保証株式会社 総務部 広報室　〒104-8438 東京都中央区八丁堀2-27-10　TEL.(03)3552-7524

建設産業と、ともに歩みつづける

東日本建設業保証株式会社

建設業界への入職促進・イメージアップ動画公開中！！

update

YouTube 東日本建設業保証公式チャンネル